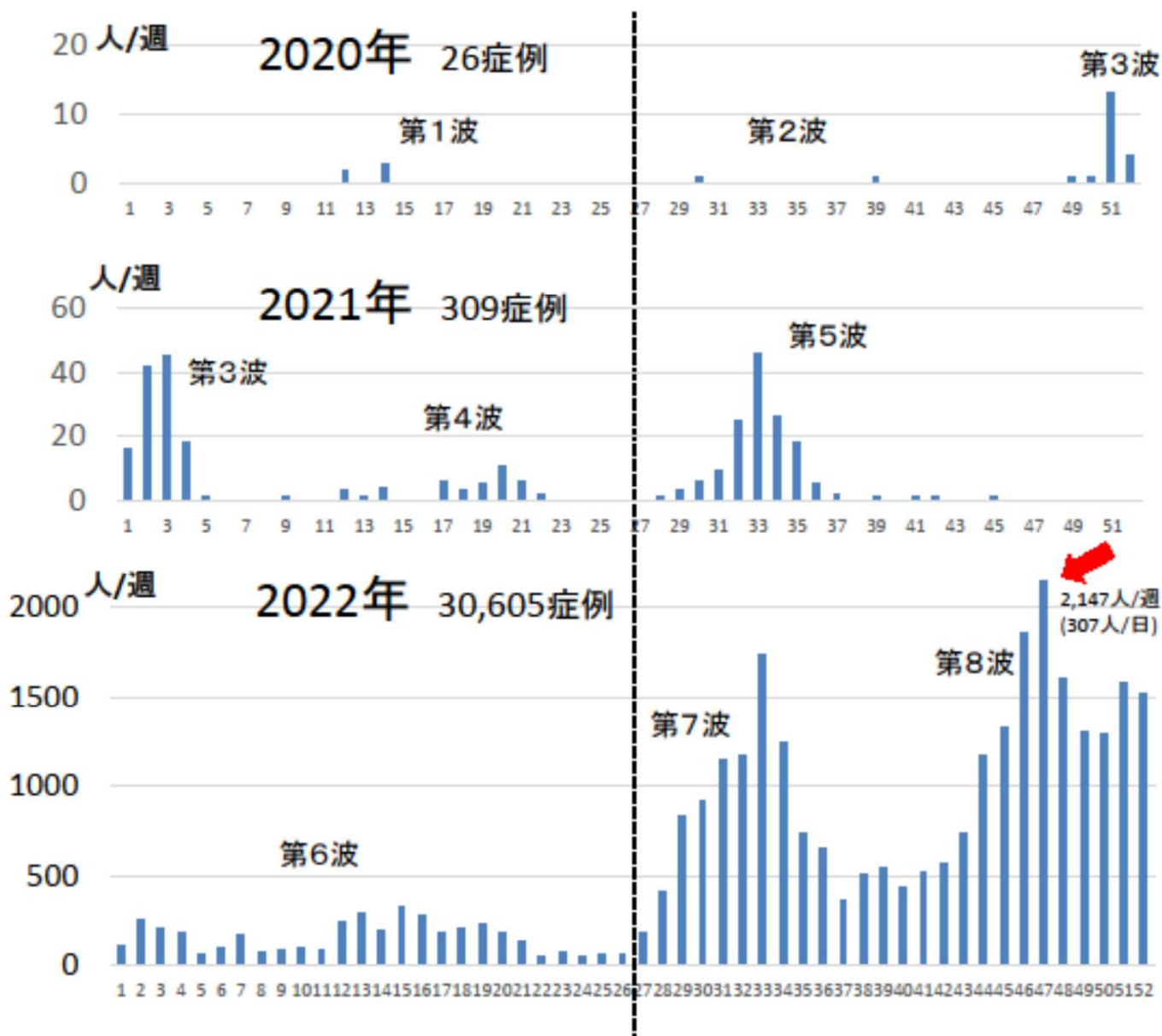


# 新型コロナウイルス感染症とのたたかい



## 週ごとのCOVID-19陽性者数 (南信州圏域2020～2023年)

3年間をグラフにしてみた。毎日毎日一例一例、実に長い戦いだっただ。むろんまだ過去形にするわけにはゆかない。感染症の最前線にいて、知り得たことも多く、その一部を雑誌に載せて発信した(業績リストの4 原著論文を参照)。次ページにその中から3編を紹介する。

## 03-2 COVID-19 オミクロン株 その世代時間について

遠山尚子、久保幸美、熊谷晶子、坂元亜紀、飯沼雅子、赤澤春奈、杉本あい、野口愛実、  
吉川美波、征矢紗幸、松岡裕之（長野県飯田保健福祉事務所）

キーワード：新型コロナウイルス感染症、オミクロン株、世代時間、積極的疫学調査、クラスター

**要旨：**2022年1月から南信州地域を襲ったCOVID-19第6波の主流となったオミクロンBA.1株について、その世代時間を推測した。2021年1月の第3波の従来株では5～7日であったのに対し、オミクロン株は2日に短縮していた。感染拡大防止のために、診断を迅速に行うこと、感染者の周辺の接触者たちにいち早く情報を伝えることがますます重要になってきている。

### A. 目的

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は日本に上陸して3年目を迎えている。2020年は迅速な検査の実施と積極的疫学調査により感染の拡がりを抑えて来た。2021年はワクチンと抗ウイルス薬の導入により、能動的にウイルスに立ち向かえるようになったかに見えた。ところがウイルスの側は自らの抗原性を次々変化させ、ヒトからヒトへの感染伝播のスピードを上げることで、より速やかにより多くのヒトを感染させるように変化した。その代表的な変異型がオミクロン株である。感染を受けてから発症するのに3日。発症前日にはすでにほかの人を感染させてしまっている。本発表では保健所で聞き取りを行い、検査を行って感染経路を追跡できた症例を、個人の特定につながらないように配慮しつつ提示し、その伝播に要する時間（世代時間）を推測した。

### B. 方法

2021年1月～3月の期間、保健所ではCOVID-19の発生届を受領したのち、当該患者に対し以下の要領で聞き取りを行った。発症前2～3日の行動・接触した人をリストアップし、まず当該患者にウイルスを伝播した人の特定に努めた。また発症までの2日間、当該患者がウイルスを伝播した可能性のある人を、接触者あるいは濃厚接触者に判別し、健康観察あるいは自己隔離を依頼した。

この聞き取り情報をもとに伝播の起きた日時

を推定し、ウイルスの世代時間を推測した。さらに1月上旬以降、毎週複数の検体を長野県環境保全研究所に送り、ウイルスの塩基配列を読み取って株の同定を行った。

### C. 結果

聞き取りにより感染元が推定された人の多くが発症の3日前の接触であった。また発症の前日に接触のあった人が次々と感染していたことから、オミクロン株はウイルスを受け取ってから48時間で次の人を感染させられる状態になっていることが推定された（図1）。飲食店Bの利用者で、1月2日夜に感染した人がいるが、この人は1月4日の午後に職場の人にウイルス伝播を起こしている。世代時間はさらに短い42～45時間と推測された。

塩基配列の読み取りにより、1月上旬の飲食店におけるクラスターは、オミクロンBA.1株により引き起こされたことが分かった。次いでオミクロン株は東京では3月上旬にBA.1株からBA.2株に置き換わりをみせた。長野県南信州地域ではこの置き換わりは3月19-21日の3連休の時に起きたことが、塩基配列読み取りにより判明した。BA.1株よりBA.2株の方がさらに伝播速度が速いと推測されたが、感染経路が不明または複数考えられる事例が増えたため、BA.2株について違いを示せるだけの成績は得られなかった。

### D. 考察

2022年1月上旬は飯田地方の感染立ち上がり初期で、他のルートからの感染が無い時期だ

ったため、世代時間をかなり正確にとらえられた。2021年1月のCOVID-19従来株の流行では1次感染から2次感染そして3次感染への世代時間は1サイクルあたり5日～7日であった<sup>1) 2)</sup>。2021年7月～9月に感染の主流であったデルタ株の世代時間は、飯田保健所の記録を振り返ると3日～4日であった。2022年1月のオミクロンBA.1株の流行ではその世代時間は2日に短縮した。感染後3日目に発症する人が多く、その前日にはすでに次の人を感染させてしまっている。ウイルスは世代時間を短くすることで、他の株より早く他者への感染を起こし、自らの株を広げる戦略を取っているのだろう。2022年3月下旬のオミクロンBA.2への置き換わりが速やかだったのも、より短い世代時間によりBA.1株を凌駕したからと類推する。

E. まとめ

2022年1月から南信州地域を襲ったCOVID-19

第6波の主流となったオミクロンBA.1株について、その世代時間を推測した。2021年1月の第3波の従来株では5～7日であったのに対し、オミクロン株は2日に短縮していた。感染拡大防止のために、診断を迅速に行うこと、感染者の周辺の接触者たちにいち早く情報を伝えることがますます重要になってきている。

F. 利益相反

利益相反なし。

G. 文献

- 1) 飯沼雅子, 赤澤春奈, 遠山尚子, 他: 南信州で発生したCOVID-19クラスター. 信州公衆衛生雑誌 16 (1) : 54-55. 2021.
- 2) 後藤由也, 原 政博, 塚平晃弘, 他: 障がい者支援施設における新型コロナウイルス集団感染の経験. 信州公衆衛生雑誌 16 (1) : 56-57. 2021.

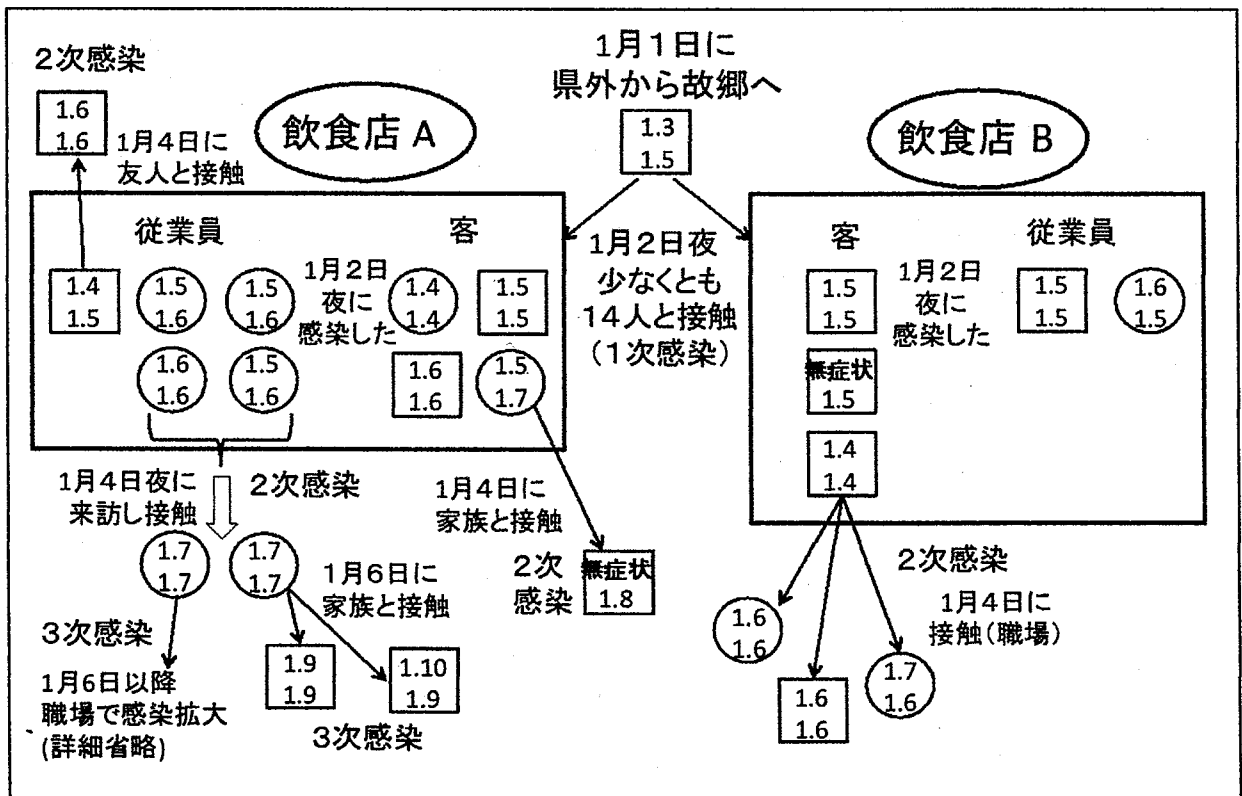


図1 2022年1月飯田保健所管内の飲食店で観察されたCOVID-19オミクロンBA.1株クラスター  
□は男性、○は女性、中の数字は上が発症日、下は陽性判明日

# COVID-19 中等症患者の少ない飯田下伊那地方 抗ウイルス薬迅速投与の影響か

〈飯田〉 松岡 裕之

## 1. 抗ウイルス薬の登場

2022年になってからいきなり襲ってきたオミクロン株は、その感染の速さと感染患者数の多さに医療機関も政府も打ちのめされました。長野県が想定し準備していた「コロナ病床」はたちまち埋まってしまう、高齢者施設・障がい者施設でも次々クラスターが発生しました。ようやくワクチンの2回目接種が集団免疫形成に効果を上げ始めていたのに、その努力を打ちのめすかのような感染の拡大でした。ワクチン導入にやや遅れて、抗体療法あるいは抗ウイルス薬の使用が始まりました。点滴注射による薬剤のほか、経口投与の可能な薬剤も普及し始めたため、飯田保健所では高齢者とくに高齢者施設での患者発生があった場合、施設長医師あるいは施設嘱託医を通じて抗ウイルス薬の処方をお願いして来ました。ご承知のとおり、新型コロナウイルス感染症の新規発生数と療養者数はほぼ全国的に毎日報道され、長野県のホームページには県内各地についてそれらの数字が毎日更新され掲載されています。保健所業務に追われ、それらの数字を毎日追いかけているわけではありませんが、時々それら

数字を眺め、自分の圏域での実態と比較することがあります。第6波のオミクロンBA.1株による波をかぶり、BA.2株による波に襲われた4月頃、この数字を見ていてふと感じたことがあります。それは「飯田圏域の酸素使用（中等症）患者数は全県の中等症患者数に比べるとうるさくないのではないか」という漠然とした印象でした。

そうこうするうち第7波に襲いかかられ、あまり他圏域の数字を見る暇もなく10月を迎えました。他圏域とわが圏域をふと比べ、以前と同じ思いが頭をよぎりました。「飯田圏域は酸素使用者が少ないな。」

## 2. 月曜日の数字を代表値として

週ごとの疾病統計というものを厚生労働省は永年作成していましたが、COVID-19もその例に漏れられません。1週間に何症例が発生したのかという時、それは月曜日から日曜日までの7日間に発生した数字が当てられます。COVID-19に関しては毎日の数字が報じられており、酸素を必要としている（中等症）患者数も毎日報告されています。「その圏

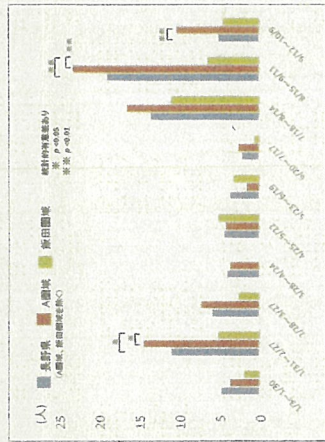


図1 酸素を必要とする患者の頻度  
4週ごと 人口10万人あたり

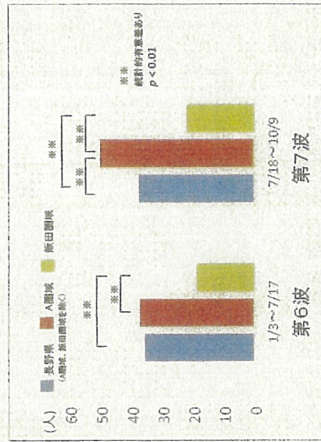


図2 酸素を必要とする患者の頻度  
大波ごと 人口10万人あたり

域に中等症患者が何人いるのか」という問いに対し、各圏域の毎週の月曜日の数字を代表値として使うことで10ヶ月にわたる中等症患者数の移り変わりをグラフ化することにしました。図1にそれを示します。4回の月曜日における中等症患者の総数を人口10万人あたりに計算し、その数字をグラフにして並べました。飯田圏域は長野県他の圏域に比べ中等症患者が少ないことが分かります。第6波と第7波の期間にまとめてみるともっとはっきりします（図2）。圏域間の比較はXスクエア法によって検定しました。

## 3. 抗ウイルス薬の使用状況

飯田圏域では2022年の1月から高齢者施設・障がい者施設でのクラスター発生があり、それに伴う病床ひっ迫で四苦八苦しましたので、なにしろ入院しなくて済むような手立てをあれこれ考えました。ワクチンは重症化を（恐らくは中等症化も）抑制すると言われていますが、これらの推進に努めました。抗ウイルス薬の使用も積極的使用を呼びかけました。当初は中和抗体の点滴静注が効果を上げていました。しかし入院患者を減らすという目的には経口薬の使用が最適です。そんな中ラゲブリオ（モルヌピラビドール）の内服が有効だという情報が届き、これを投与して良いという厚生労働省の事務連絡が2021年12月28日に届いていました。

第6波に対峙するに当たり、ワクチンによる重症化（中等症化）予防、抗原定性キットによる早期診断、そしてラゲブリオによる早期治療の3本柱を打ち出し、飯田医師会の協力を得て10ヶ月間歩んできました。特にラゲブリオ投与に当たっては同意書を取る、健康観察を行うといった手間が加わりますから、医師によつては後ざさりする人もいるわけですが、自宅療養者に対して電話診療などで患者さんに向き合ってくださいださる医師が相当数おられるのです<sup>1)</sup>。また一方、限られたラゲブリオの在庫を経時的に把握し、処方されたラゲブリオを迅速に患者さんに届けてくださる英雄的な薬剤師さ

人の存在も大きいです。診断のついたその日のうちにラゲブリオが口に入れば、それ以降のウイルスの増殖はほぼ止まります。患者さん自身の病状の進行を止められること、その患者さんからのウイルス放出をかなり下げられることが期待できます。飯田下伊那薬剤師会の皆様にもかなりの負担を強いてしまいました。

2022年9月16日から一般流通が始まりましたが、それまでに飯田下伊那の医療機関から処方を受けこれを患者さんへ手渡した回数1,059件であったと、彼らが調べてくれました。長野県の薬局全体では3,207人の使用が記録されていますから（国の調査）、県全体の使用量の3分の1が飯田圏域で使用されていた模様です。なお病院でのラゲブリオ使用は別の供給ルートになりますので、ここでは含めていません。

#### 4. 飯田下伊那でラゲブリオ使用が進んだ理由

当圏域では上に挙げたように開業の先生方のあいだでCOVID-19患者に対する電話診療がある程度浸透してしまったり。自宅療養をしてもらう高齢者にラゲブリオを飲んでもらいつつその病状を尋ねてもらったわけですが「症状改善にとっても効いた」と感じていただけの症例がいくつもあり、その情報が口コミで開業の先生方に伝わっていったエピソードがまずありました。

次いで3月になってからですが、ある知的障がい者施設でクラスタが発生し

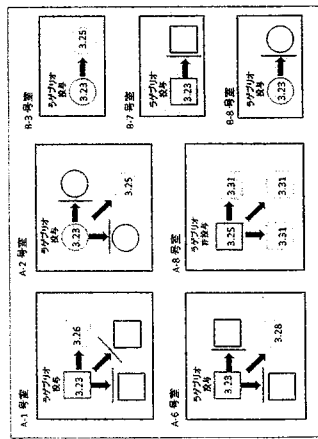


図3 ある障がい者施設でのクラスタ一拡大  
数字は陽性が判明した日

ました。61歳以上の利用者に対しては、ただちにラゲブリオの投与が行われました。しかしある一人は50歳代だったため、ラゲブリオを投与しなかったのです（図3 A-8号室）。するとこの4人部屋に同居していた3人は6日後に感染が確認されてしまいました。他の6部屋では最初に感染が確認された人にはその日のうちにラゲブリオを飲んでもらっており、その後同室者計12人のうち8人は感染を免れたのです。陽性になってしまった4人についても、同室の初発患者の感染確認から2日後の陽性確認が2人、3日後の陽性確認が1人、5日後の陽性確認が1人でした。2日後の陽性確認の人については（あるいは3日後の人も）ラゲブリオ投与前にすでにウイルス伝播が起きていた可能性があります。この事例では統計的な差を得ることはできず、あくまで1事例報告に過ぎないのですが、ラゲブリオの投与により感染者からのウイルス拡散が急速に抑制されたようにみえます。この図を飯田医師会に提示したところ、高齢者施設・障がい者施設の施設長・

嘱託医ら多くの先生方に関心を持ってもらえました。こうして自宅療養の高齢者、施設の入所者らに対し、広範なラゲブリオ投与が行われてきました。

#### 5. ラゲブリオの使用が進んでいない地域との比較

長野県の保健所長会で話をしているところ、うちの圏域ではラゲブリオの使用がとて少ないということをおっしゃる所長さんがいます。彼の担当を仮にA圏域としますが、その圏域における中等症患者の頻度をグラフに示しています（図1、図2）。第6波の時に比べ、第7波になるとA圏域の要酸素患者が突出して来るのは、他の圏域でも次第にラゲブリオ使用が増加し中等症が抑制されて来たのに、A圏域ではラゲブリオ未使用が続いていてA圏域の中等症患者が目立って来たという考察になるのではないのでしょうか。

#### 6. ラゲブリオの効果に関する文献的考察

医学論文というのは受理の可否審査に時間がかかるため、実際の成績が出て論文原稿になってから、出版され目に見えられざるまでに一定の遅れが生じます。でもCOVID-19に対してはワクチンでもそうでしたが、厚生労働省のラゲブリオ使用許可はかなり迅速に行われました（2021年12月28日事務連絡）。以下時系列で並べますが、出版された各論文はその3ヶ月前にはその成績が専門委員

会などを通じて行政の側にも伝わっており、お役所仕事としては異例の迅速さで意思決定が行われたと言えます。

さて学術論文のほうですが、2021年12月にNew England Journal of Medicine Evidenceに掲載された論文では、ラゲブリオは安全性には問題がないが、効果に対してはまだ懐疑的でした<sup>2)</sup>。2022年1月のScience Translational Medicine ではラゲブリオに内服により患者体内におけるウイルスの感染力が短期間で急速に減衰することが示されました<sup>3)</sup>。2022年2月のNew England Journal of Medicine にはラゲブリオ投与により入院する人、死亡する人が有意に減っていると報じられました<sup>4)</sup>。半年おいて8月になるとAnnals of Internal Medicineに、発症早期にラゲブリオを飲んでもらおうとSpO<sub>2</sub>の早期改善がみられ、酸素を必要とする患者が減少したという成績が提示されました<sup>5)</sup>。これはプラシボを対照においた丁寧な臨床研究の結果です。またこの論文には日本人の医師の名前もあり、我が国の成績が一部寄与したと思われま

9月にはPathogensという雑誌に、ラゲブリオの早期投与により入院患者の減少、臨床症状の早期改善が認められたという報告も出ています<sup>6)</sup>。これらの論文は長野県において「ラゲブリオの早期投与を実施してきた地域には酸素を必要とする患者が少ない」という現象の理由を説明しているのではないのでしょうか。



松岡 裕之  
1980年 新潟大学医学部 卒業  
1984年 岡山大学 助手  
1990年 三井物産 勤務  
1996年 岡山大学 助教授  
2005年 自治医科大学 助教授 (医動物学)  
2016年 長野県保健福祉部  
2017年 長野県東部田保健康研究所長

## 新型コロナウイルス感染症抗原定性検査キットの利点と欠点

まつおか ひろあき 1)・ほまはた けいこ 2)  
■ 松岡 裕之 1)・細畑 圭子 2)

1) 長野県東部田保健康所  
2) 大阪医科大学 薬学部 臨床薬学教育研究センター

### Abstract

本研究では3社の医療用キット、6社の研究用キットについて検討した。陽性を示す感度は Ct 値にして 33 ~ 36、抗原量にして 130 ~ 30 pg/ml であった。各キットは約 3 年間に流行した各種の株に対し良好な感受性を示した。陽性を示す T バンドはウイルス量の増加に伴って濃く反応するので、陽性になった人が他人を感染させえる状態かどうかを類推できる場面もあった。一方、同じ陽性者でも検体採取部位により T バンドの濃さが著しく異なることも分かった。適切な部位から検体採取をしないと、その被験者が本当に陰性なのか判別できないこともある。

### はじめに

イムノクロマトグラフィックテスト (ICT: Immunochromatographic Test) は、モノクローナル抗体を利用して対象とする物質の存在を特異的に検出する技術である。マラリア原虫やレジオネラ菌またインフルエンザウイルスのような病原体検出のほか、絨毛性ゴナドトロピンの検

Outcomes of antigen detection kits for COVID-19: Hiroyuki Matsuda<sup>1</sup>, Keiko Hosohata<sup>2</sup>.

<sup>1)</sup> Nagano Prefecture Iida Public Health Center

<sup>2)</sup> Education and Research Center for Clinical Pharmacy, Faculty of Pharmacy, Osaka Medical and Pharmaceutical University

Covid-19 in nonhospitalized patients. *N Engl J Med.* 386 (6) : 509-520.

5. Johnson MG, Puenpatom A, Moncada PA, et al. (2022) : Effect of molnupiravir on biomarkers, respiratory interventions, and medical services in COVID-19 : A randomized, placebo-controlled trial. *Ann Intern Med.* 175 (8) : 1126-1134.

6. Pontolillo M, Ucciferri C, Borrelli P, et al. (2022) : Molnupiravir as an early treatment for COVID-19 : A real life study. *Pathogens.* 11 (10) : 1121. <https://doi.org/10.3390/pathogens11101121>

(飯田保健福祉事務所)

### 7. おわりに

第6波、第7波を通じて中等症患者が比較的少ない飯田下伊那地域について、抗ウイルス薬の迅速な経口投与が特に高齢者において中等症への進行を抑制しているのではないかと仮説を立て、これを他圏域の経口投与実績と比較しつつ考察しました。今後もしA圏域での経口投与が増加し、この圏域の中等症患者頻度が減少して来るようなら、私の仮説がより確からしいことになると思うのですが、果たしてどうでしょうか。

### 参考文献

1. 塚平晃弘、後藤暁、建石徹 (2021) : 電話診療 飯田医師会ケース報告集 一自宅療養中の新型コロナウイルス感染症一。長野医療 713: 39-46.
2. Arribas JR, Bhagani S, Lobo S, et al. (2021) : Randomized trial of molnupiravir or placebo in patients hospitalized with Covid-19. *NEJM Evidence.* 1 (2) DOI: 10.1056/EVIDoa2100044.
3. Fischer W, Eron JJ, Holman W, et al. (2022) : A phase 2a clinical trial of molnupiravir in patients with COVID-19 shows accelerated SARS-CoV-2 RNA clearance and elimination of infectious virus. *Sci Transl Med.* 14 (628) : eabi7430.
4. Jayk Bernal A, Gomes da Silva MM, Musungu DB, et al. (2022) : Molnupiravir for oral treatment of

出による妊娠診断などに広く使用されている。機器を使用することなく目視により対象物質の検出が可能のため、多くの医療分野で使用されてきた。新型コロナウイルスの診断のためにも定性検査キットが世界各国で開発され市販されている。それらキットの感度はどの程度なのか、また商品間での程度の感度差があるのか、それらの比較研究をまず実施した。次いでこれらキットの有用性について、感染時期により陽性バンドがどのように変化するのか、抗原採取部位による反応性に違いがあるのかなどの検討を行った。保健所にあつてさまざまな検体が得られたため、キットの利点および欠点を経験できたので報告する。

### 1. 定性検査キット各種の比較

厚生労働省が医薬品として認可している新型コロナウイルス感染症抗原定性キット (医療用キット) を3種類、厚生労働省の検証を得ることなく販売されているキット (研究用キット) を6種類入手した。医療用キットはA社B社C社、研究用キットはD社E社F社G社H社I

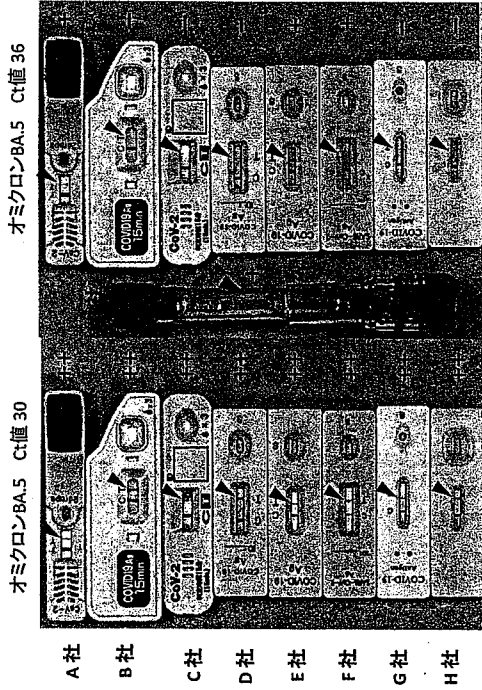


図1 オミクロンBA.5株に対する9社キットの反応  
検体はCt値30および36に調整したものを用いた。A～C社は医薬品キット。D～I社は研究用キット。

表 9種類の抗原定性検査キットと新型コロナウイルス各株との反応性

Ct値	アルファ株								デルタ株								オミクロン/BA.5							
	30	33	36	30	33	36	30	33	36	30	33	36	30	33	36	30	33	36						
A社	3	2	1	3	2	1	3	2	1	3	2	1	3	2	1	2	2	1						
B社	2	1	1	2	1	1	2	1	0	2	1	0	2	1	0	2	1	0						
C社	2	1	0	2	1	1	3	1	0	2	1	0	2	1	0	2	1	0						
D社	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2	2	1	2	2	1	2	2	0						
E社	2	1	0	2	1	0	2	2	1	2	2	1	2	2	1	2	2	1						
F社	3	2	1	3	1	1	3	1	0	2	2	1	2	2	1	2	2	1						
G社	3	2	1	2	2	1	2	2	1	2	0	2	2	0	2	2	0	0						
H社	1	1	0	2	1	0	2	1	0	2	1	0	2	1	0	2	1	0						
I社	3	2	1	3	2	1	3	2	1	3	2	1	3	2	1	3	2	1						

注:「3」は強い陽性バンドを確認できたもの、「2」はやや弱いものの陽性を確認できたもの、「1」はかなり弱いものの陽性と認められるもの、「0」はバンドが浮きあがって来ないもの。

社とした。保健所で入手した新型コロナウイルス感染症の患者検体(鼻咽頭拭い液)はPCRに掛けられ、そのウイルス量はCt値(Cycle threshold value)で示されている。またウイルス株の同定のため、株特異的プライマーが用意されており、別建てPCRを実施してウイルスの株を明らかにしている。飯田保健所では検体を冷凍保存しており、ウイルス濃度とウイルス株が判明した検体

にPCRを実施してウイルスの株を明らかにしている。飯田保健所では検体を冷凍保存しており、ウイルス濃度とウイルス株が判明した検体  
応性をまとめ表に示した。2年余りの間に株変

異が起き何回か大液が押し寄せた。それらの主要な役割を担った株について、9社のキットとも株の変異(スパイクタンパクの変異だが)により検査キットの反応性が低下することはなかった。キットに使用されているモノクローナル抗体は、新型コロナウイルスのヌクレオカプシドタンパクに対して作成されており、その抗原性は一貫して変化していないと考えられる。抗原定量検査試薬も流行当初から同じ試薬が使用されており、新型コロナウイルスのRNAを保護するヌクレオカプシドタンパクの変異はほとんど起きていないことが窺われる。このことはPCR試薬にも言える。検査に使われているプライマーはやはりヌクレオカプシドタンパクをコードするRNAに基づいて設計されており、スパイクタンパクに変異が起きた株であってもしっかりと検出されている。ウイルスRNAの特性を十分考慮した上でプライマー設計がなされていたためと思う。

異なるCt値に対しての反応性はCt値が上がると(ウイルス濃度が低くなるほど)低くなる。9社キットはすべてCt値33または36まで陽性検体を捕えることができた。抗原量に換算すると130 pg/mlまたは30 pg/ml程度と類推される。筆者らの経験によると感染により症状を自覚するのは早い人でCt値30(500 pg/ml)、多くの人でCt値25以下(5,000 pg/ml以上)に至った頃である。調査した9社のキットはすべて、感染のち症状が出る以前の段階で陽性を見つけ出せるだけの性能を有していた。

## 2. 感染の進行と検査キット陽性バンドの強度増強

ウイルス陽性者と接触があった人でも、感染していないことが確認できれば仕事を続けても

らって構わない。ある児童施設で働く職員は陽性者と接触があったため、毎朝自己検査で陰性を確認しつつ出勤していた。ある朝、Cのバンドは出たもののTのバンドは出ていないように思えたため、そのまま仕事に行き8時間後に帰宅して朝の検査キットを見てビックリ。Tバンドが出ていないか! 出勤前のあわただしい時に検査をし、Cのバンドは出た、Tのバンドはまだ出て来ないうちに、彼女は陰性と自己判断して出勤してしまったのだ。夕方の検査ではハッキリ陽性であった。2022年1月、オミクロンBA.1株が猛威を振っていた頃である。保健所に相談が来たため、まずは2つのキットの写真を撮ってもらい保健所へ送っていた(図2a, b)。確かに2つとも陽性だが、Cバ

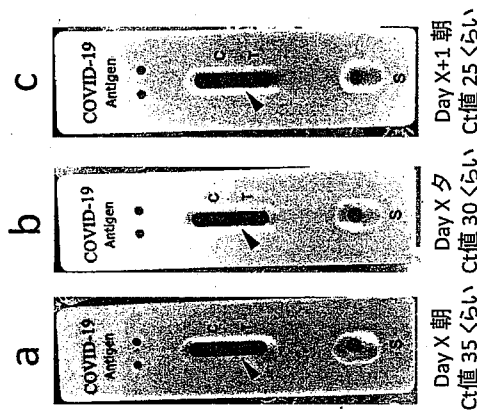


図2 ある感染者の24時間における陽性バンド増強  
a) Day Xの朝、コントロールバンド(C)が出たものの、テストバンド(T)は出なかったと思いきや出勤した。夕方帰宅してみるとうっすらながらTバンドが見えたので、驚いて再度検査した。  
b) するとTバンドがぐっきりと出たため、保健所に相談を入れた。  
c)翌日朝、再々度検査してもらったところ、さらに強いTバンドが得られた。

ンドに比べ明らかに反応が弱い。まだ他人に移せるほどウイルス量が多くないときに1日を過ぎたように見えた。そこで彼女には、その日に接触した児童らと同僚らの名簿を用意してもらい、全員を接触者として健康観察をしていた。さらに翌朝もう一度自己検査をしてもらいその写真を保健所に送っていただいた(図2c)。図が示す通り、ウイルスは24時間かけて少しずつしかし確実にその量を増している。彼女が仕事をしていた時期のウイルス量はまだ他人に移せるほどではなかったと思える。実際、職場同僚また施設児童はその後誰も陽性にならなかった。彼女に症状が現れたのはX+1の日の夕方からであった。

### 3. 検体採取部位による 定性キットの反応の違い

オミクロンBA.1株は2022年の1~2月、障がい者施設・高齢者施設で猛威を振った。ある障がい者施設では利用者はもとより施設職員が次々陽性になってしまい、施設運営が滞る事態となった。接触者である職員らは毎朝、定性検査キットで陰性を確認したうえで職場に入ってもうのうのだが、感染の輪を断ち切れない。彼らの聞き取りで気づいたことは、キットで陽性になる2~3日前からすでに喉の痛みを自覚していた職員が複数いたことだった。自己検査は鼻腔からの検体採取で実施されていた。使用説明書に記された通り正しく鼻腔より採取を行っていたが、筆者らはしかし疑問を持った。その2~3日前の喉の痛みというものは、それは新型コロナウイルスによる症状ではないのか。すると彼らは喉にウイルスを持っていないながら鼻腔にウイルスがないからと働き続けていて、職場施設内の感染を広げていたのではないのだろうか。

か。この疑問は解決されることなく、そのうち施設利用者のほぼ全員が感染し、職員の半分以上が感染者となってようやくクラスタは終結した。

4月になって保健所のある保健師の弟が感染した。同居の彼女は濃厚接触者になり7日間の自宅待機である(最終的に感染はしなかった)。そこで彼女に頼んで弟さんの同意をもらい、以下の5ヶ所から検体採取してもらった。

(1)鼻腔、(2)鼻咽頭、(3)咽頭、(4)唾液a、(5)唾液bである。普通に下を向いて採取したのが唾液aである。一旦口腔内に唾液を詰め、次に上を向いて5秒間、喉の奥へと唾液を追いやりその唾液を採取するのが唾液bである。それら検体を同時にキットに載せ並べて反応させた。するとピツクリするほど異なる反応性が見られた(図3)。最も強い反応を見せたのが咽頭から採取した検体であった。次いで鼻咽頭、それから鼻腔、唾液b、唾液aの順であった。この患者の場合、ウイルスが最も多いのは喉の奥、咽頭であった。感染の確認された翌日、発熱と喉の痛みを訴える彼から採取した検体である。鼻腔でも陽性は確認できるが、前日にもし鼻腔で検査をしたら陰性だったのではないだろうか。唾液は口腔の前方へ分泌される。ウイルスは喉の奥にいたのだから、唾液で検査をするのなら喉の奥まで唾液を行き渡らせ、これを採取するのが良いと思える。というわけで筆者らは検体の採取場所を咽頭を第一、鼻咽頭を第二にお勧めする。咽頭に綿棒を押し当てると当然「オエッ」という咽頭反射が起きる。でも嘔吐しないように我慢してもらい2回3回咽頭に押し当てたものを検体として使えば、感染後早期に(24時間後くらいに)ウイルス検知ができるようになる。鼻咽頭まで綿棒を到達させられるならもちろんそれでも良い。鼻腔での検体採取はいつ

### 採取部位

- 1 鼻腔
- 2 鼻咽頭
- 3 咽頭
- 4 唾液a
- 5 唾液b

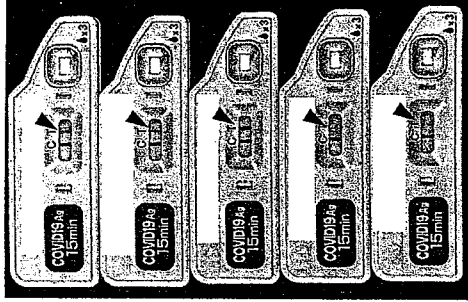


図3 採取部位によりウイルスの量が異なる。鼻咽頭拭い液を検査して陽性だった人に依頼して、翌日5つの部位から検体を採取させてもらった。最も強いバンドは咽頭から採取した検体だった。

日か陽性反応が出るだろうが、早期発見にはふさわしくない。

### おわりに

保健所では様々なウイルス株が手に入り、これを利用して各種の定性検査キットの性能を試すことができた。厚労省の認証を得ていないキットは排除されがちだが、研究用キットにも優れたものがある。ただ粗悪なキットを製造・販売されても、一般人には見わけがつかない。今回の研究では出会わなかったが、そのような粗悪品が出回らないとは言えない。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

### 文献

- 1) 松岡裕之他：新型コロナウイルス抗原定性検査キット(医療用および研究用)の有用性。信州公衆衛生雑誌, Vol.17, No.1: 52-53, 2022.
- 2) Comnan VM, Lamdt O, Kaiser M, et al.: Detection of 2019 novel coronavirus (2019-nCoV) by real-time RT-PCR. Euro Surveill, 25(3): 2000045, 2020.
- 3) 大塚喜人他：検体の種類と採取、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)病原体検査の指針第6版、厚生労働省健康局結核感染症課, pp.9-12, 2022.

### 謝辞

本研究の一部(第1章)は2021年度日本公衆衛生学会新型コロナウイルス対策調査研究・実践開発推進助成、および2021年度大同生命厚生事業団 地域保健福祉研究助成により行われた。



# 飯田保健(福祉事務)所 業績集

編集者注：総説、原著論文、学会発表はデータベース「医学中央雑誌」により検索可能なものに限って記載しました。

## 1 行政記録 (Administrative Records)

- 93-Ar1 事業概況書 平成 5 年 6 月 pp. 96 真田英機 長野県飯田保健所 1993
- 94-Ar1 事業概況書 平成 6 年 6 月 pp. 110 真田英機 長野県飯田保健所 1994
- 95-Ar1 事業概況書 平成 7 年 6 月 pp. 98 真田英機 長野県飯田保健所 1995
- 96-Ar1 事業概況書 平成 8 年 5 月 pp. 100 真田英機 長野県飯田保健所 1996
- 97-Ar1 保健計画 一阿南支所ならびに下伊那南部 1 町 5 村一 pp. 142 鈴木伸典 飯田保健所阿南支所 1997
- 97-Ar2 事業概況書 平成 9 年 6 月 pp. 98 真田英機 長野県飯田保健所 1997
- 98-Ar1 事業概況書 平成 10 年 6 月 pp. 101 真田英機 長野県飯田保健所 1998
- 99-Ar1 事業概況書 平成 11 年 6 月 pp. 60 真田英機 長野県飯田保健所 1999
- 00-Ar1 事業概況書 平成 12 年度 pp. 62 黒田育子 長野県飯田保健所 2000
- 01-Ar1 事業概況書 平成 13 年度 pp. 64 黒田育子 長野県飯田保健所 2001
- 02-Ar1 事業概況書 平成 14 年度 pp. 67 黒田育子 長野県飯田保健所 2002
- 03-Ar1 事業概況書 平成 15 年度 pp. 57 古川善行 長野県飯田保健所 2003
- 04-Ar1 事業概況書 平成 16 年度 pp. 57 佐々木隆一郎 長野県飯田保健所 2004
- 05-Ar1 事業概況書 平成 17 年度 pp. 69 佐々木隆一郎 長野県飯田保健所 2005
- 06-Ar1 事業概況書 平成 18 年度 pp. 74 佐々木隆一郎 長野県飯田保健所 2006
- 07-Ar1 事業概況書 平成 19 年度 pp. 61 佐々木隆一郎 長野県飯田保健所 2007
- 08-Ar1 事業概況書 平成 20 年度 pp. 62 佐々木隆一郎 長野県飯田保健所 2008
- 09-Ar1 事業概況書 平成 21 年度 pp. 78 佐々木隆一郎 長野県飯田保健福祉事務所 2009
- 10-Ar1 事業概況書 平成 22 年度 pp. 86 佐々木隆一郎 長野県飯田保健福祉事務所 2010
- 11-Ar1 事業概況書 平成 23 年度 pp. 71 佐々木隆一郎 長野県飯田保健福祉事務所 2011
- 12-Ar1 事業概況書 平成 24 年度 pp. 73 佐々木隆一郎 長野県飯田保健福祉事務所 2012
- 13-Ar1 事業概況書 平成 25 年度 pp. 70 佐々木隆一郎 長野県飯田保健福祉事務所 2013
- 14-Ar1 事業概況書 平成 26 年度 pp. 77 佐々木隆一郎 長野県飯田保健福祉事務所 2014
- 15-Ar1 大規模災害時の応急活動マニュアル 平成 27 年 3 月 pp. 79 長野県飯田保健福祉事務所 2015
- 15-Ar2 エボラ出血熱対応マニュアル 平成 27 年 3 月 pp. 109 長野県飯田保健福祉事務所 2015
- 15-Ar3 事業概況書 平成 27 年度 pp. 66 寺井直樹 長野県飯田保健福祉事務所 2015
- 16-Ar1 事業概況書 平成 28 年度 pp. 65 寺井直樹 長野県飯田保健福祉事務所 2016
- 17-Ar1 事業概況書 平成 29 年度 pp. 65 松岡裕之 長野県飯田保健福祉事務所 2017
- 18-Ar1 飯田保健所開設 75 周年記念誌 pp. 60 松岡裕之 長野県飯田保健福祉事務所 2018
- 18-Ar2 事業概況書 平成 30 年度 pp. 66 松岡裕之 長野県飯田保健福祉事務所 2018
- 19-Ar1 事業概況書 令和元年度 pp. 66 松岡裕之 長野県飯田保健福祉事務所 2019
- 20-Ar1 事業概況書 令和 2 年度 pp. 66 松岡裕之 長野県飯田保健福祉事務所 2020
- 21-Ar1 事業概況書 令和 3 年度 pp. 66 松岡裕之 長野県飯田保健福祉事務所 2021
- 22-Ar1 事業概況書 令和 4 年度 pp. 61 松岡裕之 長野県飯田保健福祉事務所 2022
- 23-Ar1 鳥インフルエンザ発生時の飯田保健福祉事務所 (保健所) の対応について pp. 25 長野県飯田保健福祉事務所 2023

## 2 著書 (Books)

- 15-B1 佐々木隆一郎 飯田保健所忘備録——お節介な保健所長 pp1-168 社会保険研究所 2015
- 17-B1 松岡裕之：鞭虫症 p244 福井次矢, 高木 誠, 小室一成 編集 今日の治療指針 医学書院 東京 2017
- 17-B2 松岡裕之：節足動物媒介感染症の診断 p71-73 日本昆虫科学連合 編 招かれない虫たちの話 東海大学出版部 2017
- 20-B1 松岡裕之：肺吸虫症 pp1378-80 永井良三 編 今日の診断指針第8版 医学書院 東京 2020
- 20-B2 松岡裕之：皮膚寄生虫症 pp242-53 岩田健太郎 編 本質の寄生虫 中外医学社 東京 2020
- 22-B1 松岡裕之：シラミ症 (この白くうごめくモノは?) pp152-56 大西健児 編 知っておくべき寄生虫感染症 別冊医学のあゆみ, 医歯薬出版 東京 2022

## 3 総説 (Reviews)

- 06-R1 佐々木隆一郎：健康危機管理 保健所の機能面からの検討 公衆衛生 70(3)：177-179, 2006
- 08-R1 佐々木隆一郎, 中村恵子：健康危機管理としての震災への備え 保健所保健師への期待 保健師ジャーナル (1348-8333) 64(4)：350-353, 2008
- 13-R1 佐々木隆一郎：大規模災害における保健所の役割 全国保健所長会を中心とした研究を主に 保健医療科学 (1347-6459) 62(4)：421-427, 2013
- 16-R1 松岡裕之：2014年8~9月に代々木公園で伝播の起きた Dengue 熱について —新しい感染蚊を作らないことこそ最重要— Pest Control Tokyo 71: 45-47, 2016
- 19-R1 松岡裕之：昆虫によるアレルギー 医学のあゆみ 269(12)：941-42, 2019
- 21-R1 松岡裕之：知っておくべき感染症 シラミ症 (この白くうごめくモノは?) 医学のあゆみ 279(11)：1100-04, 2021
- 22-R1 細畑圭子, 松岡裕之, 熊谷悦子：高齢者における腎機能低下を予測する尿中バイオマーカー Precision Medicine 5(2)：194-98, 2022

## 4 原著論文 (Original Articles)

- 73-A1 飯島知子：大鹿村における健康教室 公衆衛生情報 3(12)：28-29, 1973
- 74-A1 藤島弘道：私の地域保健 厚生 の指標 (0452-6104) 21(1)：65-70, 1974
- 74-A2 宇治正美, 内田昭夫：売木村における胃疾患と循環器の状況調査 公衆衛生情報 4(3)：19, 1974
- 75-A1 金子 勇：へき地における健康意識調査および一般住民検診 公衆衛生情報 5(5)：26, 1975
- 76-A1 宇治正美, 内田昭夫：売木村における胃疾患と循環器の状況調査 公衆衛生情報 6(10)：29, 1976
- 76-A2 藤島弘道, 宮沢寿一郎：無医地区検診活動 公衆衛生情報 6(12)：22, 1976
- 77-A1 藤島弘道, 金子 勇：農山村の貧血対策 公衆衛生情報 7(9)：16, 1977
- 86-A1 塩沢辰子, 他：ダイケアから作業所へ 回復過程へのかかわり 病院・地域精神医学 (0910-4798) 84: 197-199, 1986
- 87-A1 塩沢辰子, 他：ダイケアから作業所へ 回復過程へのかかわり 病院・地域精神医学 86: 102-104, 1987
- 88-A1 塩沢辰子：地域活動の中で見えてきたこと 信じあえる関係の中で いずみの家の活動を通して 病院・地域精神医学 92: 81-84, 1988
- 89-A1 塩沢辰子：信じあえる関係の中で いずみの家の活動を通して 病院・地域精神医学 95: 23-27, 1989
- 93-A1 塩沢辰子：地域での寝たきりゼロ作戦 長野県の脳卒中情報システム事業と寝たきり予防 公衆衛生 (0368-5187) 57(7)：476-479, 1993
- 00-A1 塩沢辰子：地域保健法推進に向けて保健所保健婦はどのような役割を担うのか 公衆衛生 64(11)：775-777, 2000
- 05-A1 月岡 忠, 寺澤潤一, 牧野恒久, 中澤裕之：SPME-GC/MS による尿中のフェノール類の分析 長野県環境保全研究所研究報告(1880-179X) 1:15-21, 2005
- 06-A1 佐々木隆一郎：健康危機管理を視点に置いた保健所の組織構造と機能強化 保健所の機能面からの検討 公衆衛生 70(3)：177-179, 2006

- 06-A2 松澤靖子：アルコール依存症の予防活動の現状と課題 未成年者の飲酒防止対策推進事業 長野県飯田保健所の取組み 日本アルコール関連問題学会雑誌 8： 61-64, 2006
- 07-A1 和田正道, 丹後俊郎：食中毒発生時における摂食時点の新しい推定法の開発 食品衛生学雑誌 (0015-6426) 4(2)： 27-34, 2007
- 07-A2 和田正道, 丹後俊郎：原因物質別による食中毒発生時における摂食時点の推移 食品衛生学雑誌 48(3)： 69-76, 2007
- 09-A1 藤本和子, 小林貞子, 羽場 昇, 佐々木隆一郎, 宮島 勲：長野県飯田下伊那地域における糞便由来病原体モニタリングの有用性についての一検討 信州公衆衛生雑誌(1882-2312) 3(2)： 3-7, 2009
- 09-A2 友竹浩之, 岡島やよい, 南島八重子, 小倉奈緒, 齋藤陽子, 今井奈緒美, 佐々木 学, 野坂俊弥, 野見山哲生：高齢者を対象とした脳卒中予防教室における栄養指導活動の効果 信州公衆衛生雑誌 3(2)： 23-28, 2009
- 09-A3 中村香子, 中村恵子, 宮島里美, 白上むつみ, 三石聖子, 金本直子, 石田香栄子, 佐々木隆一郎, 田中由嘉里, 高田千恵子, 安田貴恵子, 御子柴裕子, 下原千恵子：長野県南部地域における在宅難病患者に対する災害時支援の必要性についての検討 信州公衆衛生雑誌 3(2)： 35-39, 2009
- 10-A1 佐々木隆一郎：長野県の結核低頻度に関する一検討 信州公衆衛生雑誌 4(2)： 1-4, 2010
- 10-A2 東原はるか, 白上むつみ, 中村恵子, 安川照人, 熊谷晶子, 田中由嘉里, 金本直子, 田中麻衣, 赤澤春奈, 佐々木隆一郎：飯田保健所管内における最近の結核新登録患者の動向 信州公衆衛生雑誌 4(2)： 11-15, 2010
- 12-A1 牧田美保子, 村澤典子, 佐々木隆一郎：所管内で発生した原因食品不明の有症苦情事例について 信州公衆衛生雑誌 6(2)： 107-112, 2012
- 17-A1 吉田徹也, 西垣明子, 松岡裕之：長野県上伊那地域で発生した *Yersinia enterocolitica* 血清型 O8 による集団感染 信州公衆衛生雑誌 12(1)： 3-12, 2017
- 20-A1 Hosohata K, Inada A, Oyama S, Doi T, Niinomi I, Wakabayashi T, Uchida M, Iwanaga K, Matsuoka H: Improvement of blood pressure control by adherence check in patients with apparent treatment-resistant hypertension: A case series. Clin Med Insights Case Rep 17: 13, 2020 February
- 20-A2 Hosohata K, Matsuoka H, Iwanaga K, Kumagai E: Urinary vanin-1 associated with chronic kidney disease in hypertensive patients: A pilot study. J Clin Hypertens 22(8): 1458-1465, 2020 August
- 20-A3 Takahashi M, Nishizawa T, Sato Y, Miyazaki S, Aikawa T, Ashida K, Tamaru T, Oguro K, Hayakawa F, Matsuoka H, Ozaki H, Kodera Y, Irokawa M, Hirose H, Nagashima S, Kawakami M, Mizuo H, Okamoto H, Murata K: Prevalence and genotype/subtype distribution of hepatitis E virus (HEV) among wild boars in Japan: Identification of a genotype 5 HEV strain. Virus Res 287: 198106, 2020 August
- 20-A4 松岡裕之：スズキに寄生した *Kudoa iwatai* による集団有症事例 Clin Parasitol 31(1)： 75-77, 2020
- 21-A1 Wakabayashi T, Hosohata K, Oyama S, Inada A, Niinomi I, Kambara H, Iida T, Hasebe K, Matsuoka H, Uchida M, Kumagai E: Association between a low dose of proton pump inhibitors and kidney function decline in elderly hypertensive patients: a retrospective observational study. J Int Med Res 49(4)： 3000605211006653, 2021 April
- 21-A2 Hosohata K, Matsuoka H, Kumagai E: Association of urinary vanin-1 with kidney function decline in hypertensive patients. J Clin Hypertens 23: 1316-21, 2021 May
- 21-A3 松岡裕之, 原 政博, 塚平晃弘, 堀米直人：飯田下伊那地方を襲った COVID-19 を考察する—デルタ株のウイルス量にびっくり、ワクチンの効果に期待— 長野警報 713: 47-50, 2021
- 22-A1 Takahashi M, Nishizono A, Kawakami M, Fukui E, Isogai E, Matsuoka H, Yamamoto S, Mizuo H, Nagashima S, Murata K, Okamoto H: Identification of hepatitis E virus in wild sika deer in Japan. Virus Res 308: 198645, 2022 January

22-A2 Nishizawa T, Takahashi M, Matsuoka H, Nishizono A, Yamamoto S, Fukui E, Mizuo H, Kawakami M, Murata K, Okamoto H: Genomic characterization and the prevalence of a novel copiparvovirus in wild sika deer (*Cervus nippon*) in Japan. *Virus Res* 314: 198749, 2022 June

22-A3 松岡裕之：お練り祭りクラスターの教訓 飯田医師会報 43: 18-24, 2022

22-A4 松岡裕之：COVID-19 中等症患者の少ない飯田下伊那地方 抗ウイルス薬迅速投与の影響か 長野醫報 726: 38-42, 2022

23-A1 松岡裕之, 細畑圭子：新型コロナウイルス感染症抗原定性検査キットの利点と欠点 *BIO Clinica* 38(4): 339-42, 2023

## 5 学会発表 (Presentations)

70-P1 宇治正美, 吉沢明子：長野県下伊那地区開拓地の生活状況と健康状態の検討 *日本農村医学会雑誌* (0468-2513) 18(3): 148-149, 1970

71-P1 林 彦太郎, 松沢ひさ, 吉沢明子, 土岐和子, 長岡青遠, 猿橋孝男：三歳児検診に於ける精神発達面調査の阿南方式について *日本農村医学会雑誌* 20(2): 96, 1971

71-P2 木下陽子, 金田博子：長野県阿南地方農村に於ける食塩摂取量の調査, 特に食品の食塩濃度の考察 *栄養日本* (0013-6492) 13(10): 18, 1971

74-P1 宇治正美, 丸井きのゑ, 土岐和子：胃集検における保健婦の在り方について *日本農村医学会雑誌* 23(3): 216-217, 1974

75-P1 宇治正美, 塩沢昭司, 丸井きのゑ, 吉沢明子, 土岐和子, 松橋 翠, 堀内好子, 宮島喜文, 遠山恵美, 松村和子：長野県売木村における食生活の再検討と健康指導の実践について *日本農村医学会雑誌* 24(3): 344-345, 1975

76-P1 宇治正美, 伊東重成, 伊藤立子, 土松 保, 木下貞夫, 遠山恵美, 丸井きのゑ, 土岐和子, 松橋 翠, 金田博子：農村における貧血者の胃所見について *日本農村医学会雑誌* 25(4): 633, 1976

76-P2 宇治正美, 丸井きのゑ, 土岐和子：胃集検における保健婦の役割 *日本農村医学会雑誌* 25(4): 655, 1976

77-P1 堀内好子, 宇治正美, 塩沢昭司, 丸井きのゑ, 吉沢明子, 土岐和子, 松橋 翠, 宮島喜文, 遠山恵美, 松村和子：肥満者の食生活の再検討 *日本農村医学会雑誌* 26(1): 67, 1977

77-P2 宇治正美, 中島義司, 塩沢昭司, 丸井きのゑ, 吉沢明子, 土岐和子, 藤森房子, 太田佐代子, 滝沢武子：長野県の一僻地農村地域における誘致工場労働者の健康について *日本農村医学会雑誌* 26(3): 442-443, 1977

77-P3 丑山隆雄, 村沢保朋, 小林秋男, 原田行雄, 伊藤賢, 星野満也, 土村春夫：と畜検査でみられた尿石症牛の生化学的検討 *日本獣医師会雑誌* (0446-6454) 30(臨増): 150, 1977

87-P1 佐藤彰一郎, 他：牛の胃真菌感染症例について 真菌と真菌症(0583-0516) 28(1): 106, 1987

94-P1 鈴木恵美子, 他：早期痴呆予防への取り組みと成果 (第2報)脳刺激訓練教室3年間の実践から *日本公衆衛生学会総会抄録集*(1347-8060) 53: 867, 1994

98-P1 宮島喜文, 他：病原菌検出サーベイランス事業について(第1報) *医学検査*(0915-8669) 47(3): 664, 1998

98-P2 藤本和子, 他：病原菌検出サーベイランス事業について(第2報) *医学検査* 47(3): 665, 1998

04-P1 白上むつみ, 高木久美子, 山崎信男, 畑山善行：脳卒中情報システムから見える飯伊地域の状況 *日本農村医学会雑誌* 52(5): 860, 2004

04-P2 園田春美, 宮入崇夫, 中村安満, 宮川幸昭, 佐々木隆一郎：結婚披露宴におけるノロウイルスの感染症事例について *日本公衆衛生学会総会抄録集* 63: 401, 2004

04-P3 坂田典子, 中村恵子, 佐々木隆一郎：長野県飯田保健所管内未熟児等支援システム事業 *日本公衆衛生学会総会抄録集* 63: 427, 2004

04-P4 柿澤満絵, 羽場町子, 中村恵子, 佐々木隆一郎：地域診断資料を利用した市町村介入への試み *日本公衆衛生学会総会抄録集* 63: 440, 2004

05-P1 佐々木隆一郎, 西口 裕, 北村 純, 吉田 京, 黒澤豊, 角野文彦：大規模(自然)災害時における全国保健所の準備状況調査 *日本公衆衛生学会総会抄録集* 64: 463,

2005

05-P2 宮島 勲, 藤本和子, 佐々木隆一郎:長野県のスギヒノキ花粉飛散予測方法の検討 日本公衆衛生学会総会抄録集 64: 481, 2005

06-P1 中村恵子, 白上むつみ, 三石聖子, 佐々木隆一郎, 宮島里美, 田中由嘉里, 羽場町子, 安田貴恵子:看護職からみた災害時医療体制の準備状況に関する調査結果 信州公衆衛生雑誌(1882-2312) 1(1): 24-25, 2006

06-P2 田中由嘉里, 渡辺庸子, 中村恵子, 佐々木隆一郎:飯田・伊那保健所管内の健康状況 自殺に関する統計的考察 信州公衆衛生雑誌 1(1): 38-39, 2006

06-P3 三石聖子, 白上むつみ, 樋下香子, 中村恵子, 佐々木隆一郎:地域で暮らす精神障害者の支援の試み 就労支援モデル事業の報告 信州公衆衛生雑誌 1(1): 40-41, 2006

06-P4 小林貞子, 藤本和子, 込山茂久, 佐々木隆一郎, 宮島 勲:平成 18 年飯田下伊那地方におけるスギ・ヒノキ花粉飛散状況について 信州公衆衛生雑誌 1(1): 44-45, 2006

06-P5 藤本和子, 小林貞子, 込山茂久, 佐々木隆一郎, 宮島 勲:飯田下伊那地域における病原体検出サーベイランス事業について信州公衆衛生雑誌 1(1): 48-49, 2006

06-P6 和田正道:長野県における大気汚染物質濃度の 30 余年間に渡る推移 信州公衆衛生雑誌 1(1): 50-51, 2006

06-P7 鈴木正春, 佐々木隆一郎, 酒井登実代:飯伊地域の女性を対象とした「食と健康に関するアンケート調査」結果 信州公衆衛生雑誌 1(1): 58-59, 2006

06-P8 白上むつみ, 中村恵子, 三石聖子, 村井ふみ, 石田香栄子, 塩沢千佳子, 樋下香子, 佐々木隆一郎, 細沢綾:飯田保健所における結核への取り組み 信州公衆衛生雑誌 1(1): 68-69, 2006

06-P9 田中清司, 佐々木隆一郎, 梅澤光男, 熊谷彰芳, 宮下健昭, 山川晋, 藤井まや, 伊藤博之, 村澤典子:地域における食中毒予防 正しい手洗い方法普及効果についての一検討 信州公衆衛生雑誌 1(1): 70-71, 2006

06-P10 桜山明美, 小林文宗, 中村恵子, 佐々木隆一郎:地域診断に基づく市町村支援の経験 信州公衆衛生雑誌 1(1): 72-73, 2006

06-P11 佐々木隆一郎, 古川 善行:長野県の健康長寿に関する一検討(その 1)死亡の現状と生活習慣の特徴 信州公衆衛生雑誌 1(1): 74-75, 2006

06-P12 佐々木隆一郎, 渡辺庸子, 寺井直樹:長野県南部地域における大規模(自然)災害時医療支援データベースの構築 日本公衆衛生学会総会抄録集 65: 472, 2006

06-P13 田中清司, 熊谷彰芳, 佐々木隆一郎, 渡辺庸子, 佐藤守俊, 寺井直樹, 中村安満:長野県南部地域におけるズーノーシスに対する意識および感染症経験に関する調査 日本公衆衛生学会総会抄録集 65: 472, 2006

06-P14 中村恵子, 羽場町子, 佐々木隆一郎, 宮島里美, 渡辺庸子, 鈴木恵美子, 寺井直樹, 安田貴恵子, 御子柴裕子, 蔵之内睦美:看護職から見た長野県南部地域における大規模災害時の準備状況について 日本公衆衛生学会総会抄録集 65: 473, 2006.10

06-P15 佐々木隆一郎:長野県の結核の現状 なぜ低頻度? 結核(0022-9776) 81(12): 779, 2006

07-P1 藤本和子, 小林貞子, 込山茂久, 佐々木隆一郎:飯田下伊那地域におけるペニシリン耐性肺炎球菌の検出状況について 信州公衆衛生雑誌 2(1): 30-31, 2007

07-P2 白上むつみ, 中村恵子, 下原千恵子, 樋下香子, 三石聖子, 金本直子, 石田香栄子, 佐々木隆一郎:飯田保健所における DOTS の現状と課題 信州公衆衛生雑誌 2(1): 32-33, 2007

07-P3 宮下健昭, 小林賢二, 山川晋, 竹谷祐彰, 村澤典子, 佐々木隆一郎, 田中清司, 藤井まや:食中毒を疑ったノロウイルス感染症の二事例 信州公衆衛生雑誌 2(1): 34-35, 2007

07-P4 樋下香子, 中村恵子, 高田千恵子, 白上むつみ, 三石聖子, 金本直子, 下原千恵子, 石田香栄子, 佐々木隆一郎, 宮島里美, 田中由嘉里, 安田貴恵子, 御子柴裕子:長野県南部地域における難病患者に対する災害時支援必要度調査について 信州公衆衛生雑誌 2(1): 38-39, 2007

07-P5 和田正道, 関 久人, 佐藤義之:長野県内の地上気象観測所の気温および河川・湖沼の水温の 40 年間に渡る推移 信州公衆衛生雑誌 2(1): 60-61, 2007

07-P6 佐々木隆一郎, 古川善行:長野県の健康長寿に関する一検討(その 2) 長野県内の健康較差に関する要因の検

- 討 信州公衆衛生雑誌 2(1): 62-63, 2007
- 07-P7 佐々木隆一郎: 健康危機管理の体制と保健所の機能強化 地域における健康危機管理に備えた救急医療体制の再構築 日本公衆衛生学会総会抄録集 66: 143, 2007
- 07-P8 中瀬克己, 柏樹悦郎, 水田英生, 岩本治也, 佐々木隆一郎: 保健所におけるウエストナイル熱等感染症媒介蚊対策の評価 日本公衆衛生学会総会抄録集 66: 331, 2007
- 07-P9 樋下香子, 中村恵子, 佐々木隆一郎, 高田千恵子, 安田貴恵子, 御子柴裕子: 長野県南部地域における難病患者に対する災害時支援必要度調査について 日本公衆衛生学会総会抄録集 66: 334, 2007
- 07-P10 佐々木隆一郎, 藤中高子, 松本一年, 吉村健清, 堀井淳一, 米山克俊: 保健所がはたす健康危機管理 原因不明の健康危機 日本公衆衛生学会総会抄録集 66: 335-336, 2007
- 07-P11 和田正道: 全国 155 地上気象観測所における気温および雨量の 40 余年間に渡る推移 日本公衆衛生学会総会抄録集 66: 650, 2007
- 08-P1 白上むつみ, 宮島里美, 中村香子, 三石聖子, 金本直子, 石田香栄子, 中村恵子, 佐々木隆一郎: 飯田保健所における結核対策についての一考察 信州公衆衛生雑誌 3(1): 30-31, 2008
- 08-P2 佐々木隆一郎: 長野県の結核の低頻度に関する一考察 信州公衆衛生雑誌 3(1): 32-33, 2008
- 08-P3 藤本和子, 小林貞子, 羽場 昇, 佐々木隆一郎, 宮島 勲: 飯田下伊那地域における病原体検出サーベイランス事業について(第2報) 信州公衆衛生雑誌 3(1): 38-39, 2008
- 08-P4 三石聖子, 宮島里美, 白上むつみ, 中村香子, 金本直子, 石田香栄子, 中村恵子, 佐々木隆一郎: 小学校におけるノロウイルス感染症集団発生事例信州公衆衛生雑誌 3(1): 40-41, 2008
- 08-P5 小林貞子, 藤本和子, 羽場 昇, 佐々木隆一郎: 飯田保健所におけるスギ・ヒノキ花粉飛散情報提供事業について 信州公衆衛生雑誌 3(1): 44-45, 2008
- 08-P6 田中佳乃, 柏木志穂美, 佐々木隆一郎: 食事摂取基準を基にした栄養調査結果に関する一考察 信州公衆衛生雑誌 3(1): 62-63, 2008
- 08-P7 佐々木隆一郎 自然災害での健康危機管理 発災時対応と保健所・地域での備え 自然災害に備えた保健所の役割と現状 日本公衆衛生学会総会抄録集 67: 97, 2008
- 08-P8 佐々木隆一郎, 堀井淳一, 寺井直樹, 米山克俊: 中越沖地震事例からみた保健所の役割について日本公衆衛生学会総会抄録集 67: 317, 2008
- 08-P9 藤本和子, 小林貞子, 佐々木隆一郎: 保健所における「糞便由来病原体モニタリング」の有用性について 日本公衆衛生学会総会抄録集 67: 578, 2008
- 08-P10 白上むつみ, 佐々木隆一郎, 中村恵子, 中村香子: 地域における結核対策についての一考察 日本公衆衛生学会総会抄録集 67: 587, 2008
- 09-P1 柏木志穂美, 田中佳乃, 佐々木隆一郎: 飯伊地域の死亡と食生活の特徴について 信州公衆衛生雑誌 4(1): 30-31, 2009
- 09-P2 金本直子, 中村恵子, 熊谷晶子, 白上むつみ, 田中由嘉里, 石田佳栄子, 田中麻衣, 赤澤春奈, 東原はるか, 佐々木隆一郎: 地域診断提言後の市町村の取り組みと評価 信州公衆衛生雑誌 4(1): 38-39, 2009
- 09-P3 坂本 淳, 村澤典子, 佐々木隆一郎: 食中毒事件における原因食品等の推定について 信州公衆衛生雑誌 4(1): 64-65, 2009
- 09-P4 熊谷昌子, 佐々木隆一郎, 中村恵子, 金本直子: 障害者自立支援法施行に伴う地域における精神障害者の生活実態の変化について 日本公衆衛生学会総会抄録集 68: 529, 2009
- 09-P5 佐々木隆一郎, 北川定謙, 澁谷いづみ, 岩本治也, 米山克俊: 全国保健所調査からみた保健所の健康危機管理体制の現状について 日本公衆衛生学会総会抄録集 68: 562, 2009
- 09-P6 佐々木隆一郎, 北川定謙, 澁谷いづみ, 岩本治也, 米山克俊: 地域診断に基づく市町村支援とその評価 日本公衆衛生学会総会抄録集 68: 585, 2009
- 10-P1 赤澤春奈, 安川照人, 中村恵子, 熊谷晶子, 田中由嘉里, 石田香栄子, 伊藤実緒, 田中麻衣, 東原はるか, 藤本和子, 佐々木隆一郎, 白上むつみ, 金本直子: 飯田保健所における新型インフルエンザ対応の経験について

- 信州公衆衛生雑誌 5(1): 28-29, 2010
- 10-P2 東原はるか, 中村恵子, 安川照人, 熊谷晶子, 田中由嘉里, 石田香栄子, 伊藤実緒, 田中麻衣, 赤澤春奈, 佐々木隆一郎, 白上むつみ, 金本直子: 飯田保健所管内における最近の結核新登録患者の動向 信州公衆衛生雑誌 5(1): 34-35, 2010
- 10-P3 田中佳乃, 柏木志穂美, 花岡佐喜子, 小林ゆかり, 高橋初江, 成見みゆき, 浦澤麻美, 渡邊恵, 酒井登美代, 小出優子, 飯澤裕美, 仁科あき子, 赤塩真奈美, 小林真琴, 宮島京子, 原田直樹, 中川優希, 堀内亜矢子, 佐々木隆一郎, 寺井直樹: 長野県内市町村の災害時の栄養支援準備状況の現状について 信州公衆衛生雑誌 5(1): 42-43, 2010
- 10-P4 高橋初江, 成見みゆき, 町田宗仁, 宮島京子, 白井祐二, 堀内亜矢子, 佐々木隆一郎, 寺井直樹: 災害時栄養・食生活支援体制構築のための各種団体との連携の検討 信州公衆衛生雑誌 5(1): 44-45, 2010
- 10-P5 宮島京子, 白井祐二, 堀内亜矢子, 高橋初江, 成見みゆき, 町田宗仁, 佐々木隆一郎, 寺井直樹: 特殊食品を活用した災害時栄養・食生活支援の検討 信州公衆衛生雑誌 5(1): 46-47, 2010
- 10-P6 飯澤裕美, 寺井直樹, 仁科あき子, 鈴木晴子, 原田直樹, 多田志織, 佐々木隆一郎: 給食施設の危機管理対策に必要な視点の検討 信州公衆衛生雑誌 5(1): 48-49, 2010
- 10-P7 井出伊織, 田中佳乃, 佐々木隆一郎, 柏木志穂美: 飯田保健所管内の市町村の災害時栄養支援体制の現状について 信州公衆衛生雑誌 5(1): 50-51, 2010
- 10-P8 柏木志穂美, 田中佳乃, 佐々木隆一郎: 飯田地域における食事バランス簡易判定グッズの試作について 信州公衆衛生雑誌 5(1): 54-55, 2010
- 10-P9 田中麻衣, 中村恵子, 熊谷晶子, 田中由嘉里, 石田香栄子, 伊藤実緒, 赤澤春奈, 東原はるか, 佐々木隆一郎: 飯田地域における低出生体重児発生要因調査についての一検討 信州公衆衛生雑誌 5(1): 56-57, 2010
- 10-P10 重盛由文, 村澤典子, 清水秀樹, 石田香栄子, 佐々木隆一郎: 有機リン系薬剤中毒(疑い)に係る医療機関・捜査機関・行政機関の連携事例 信州公衆衛生雑誌 5(1): 74-75, 2010
- 10-P11 田中由嘉里, 佐々木隆一郎, 中村恵子, 藤本和子, 安川照人, 田中佳乃, 赤澤春奈: 自殺対策にはたす保健所の一試み 日本公衆衛生学会総会抄録集 69: 411, 2010
- 10-P12 佐々木隆一郎, 安川照人, 赤澤春奈, 中村恵子, 藤本和子, 田中由嘉里, 田中佳乃: 長野県飯田保健所における新型インフルエンザ対応の経験と課題について 日本公衆衛生学会総会抄録集 69: 457, 2010
- 10-P13 岩本治也, 佐々木隆一郎, 米山克俊, 多田羅浩三: 健康危機全般における保健所の危機管理体制に関する全国保健所調査結果について 日本公衆衛生学会総会抄録集 69: 458, 2010
- 10-P14 花岡佐喜子, 小林良清, 小林ゆかり, 佐々木隆一郎, 田中佳乃, 寺井直樹, 飯澤裕美, 高橋初江, 成見みゆき, 宮島京子, 米山克俊: 長野県における災害時栄養支援体制の構築について(第1報) 日本公衆衛生学会総会抄録集 69: 463, 2010
- 10-P15 田中佳乃, 佐々木隆一郎, 花岡佐喜子, 寺井直樹, 飯澤裕美, 高橋初江, 成見みゆき, 宮島京子, 米山克俊, 小林ゆかり: 災害時の長期避難者に対する食のバランスチェック方法に関する一検討 日本公衆衛生学会総会抄録集 69: 463, 2010
- 10-P16 藤本和子, 下平奈緒子, 宮島 勲, 佐々木隆一郎: 長野県飯田保健所における花粉症予防対策事業の有用性についての検討 日本公衆衛生学会総会抄録集 69: 559, 2010
- 11-P1 赤澤春奈, 安川照人, 宮島里美, 熊谷晶子, 田中由嘉里, 伊藤実緒, 安藤玲子, 東原はるか, 宮島ひとみ, 北沢卓也, 藤本和子, 下平奈緒子, 佐々木隆一郎, 中村恵子, 田中麻衣: 保育園で発生した感染性胃腸炎の集団発生について 信州公衆衛生雑誌 6(1): 42-43, 2011
- 11-P2 下平奈緒子, 安川照人, 赤澤春奈, 伊藤実緒, 東原はるか, 熊谷晶子, 田中由嘉里, 藤本和子, 佐々木隆一郎: 飯田保健所管内の社会福祉施設における腸管出血性大腸菌感染症の一例について 信州公衆衛生雑誌 6(1): 46-47, 2011
- 11-P3 牧田 美保子, 佐々木隆一郎: 原因物質不明の有症苦情事例に関する調査結果について 信州公衆衛生雑誌 6(1): 50-51, 2011
- 11-P4 東原はるか, 安川照人, 赤澤春奈, 熊谷晶子, 田中由嘉里, 伊藤実緒, 安藤玲子, 宮島ひとみ, 北沢卓也,

- 宮島里美, 佐々木隆一郎: 飯田保健所管内における最近の結核新登録患者の動向についての一考察 信州公衆衛生雑誌 6(1): 52-53, 2011
- 11-P5 伊藤実緒, 田中由嘉里, 宮島里美, 熊谷晶子, 安藤玲子, 赤澤春奈, 東原はるか, 宮島ひとみ, 北沢 卓也, 佐々木隆一郎, 中村恵子, 田中麻衣: 精神緊急対応事例からみた地域の課題について 信州公衆衛生雑誌 6(1): 62-63, 2011
- 11-P6 佐々木隆一郎: 専門家(Public Health Specialist)制度の発展と学会の役割 地域における専門職教育 全国保健所長会及び信州公衆衛生学会の取り組み 日本公衆衛生学会総会抄録集 70: 88, 2011
- 11-P7 塩沢まゆみ, 大島みどり, 三浦弥生, 宮島里美, 伊藤実緒, 佐々木隆一郎: 健康な町づくり推進事業「ふっと・ふっと エクササイズ」における事業効果と介護予防 日本公衆衛生学会総会抄録集 70: 297, 2011
- 11-P8 田中由嘉里, 宮島里美, 伊藤実緒, 藤本和子, 下平奈緒子, 佐々木隆一郎: 長野県飯田地域における自殺予防対策についての保健所の役割に関する一検討 日本公衆衛生学会総会抄録集 70: 368, 2011
- 11-P9 佐々木隆一郎, 石丸泰隆, 渋谷いづみ, 多田羅浩三, 一乗健太郎, 若井友美, 米山克俊: 東日本大震災における保健所情報支援システムの運用実績 日本公衆衛生学会総会抄録集 70: 406, 2011
- 11-P10 佐々木隆一郎: 医療・災害現場の救急医療と公衆衛生的対応 災害時医療にそなえる保健所の役割と現状 日本医学会総会誌 28 回 II: 308, 2011
- 12-P1 井出伊織, 小野希代子, 安川照人, 長棟美幸, 佐々木隆一郎: 飯伊地域の小学生と保護者の朝食状況について 信州公衆衛生雑誌 7(1): 26-27, 2012
- 12-P2 松木信賢, 下平徹, 小木曾悦人, 長棟美幸, 佐々木隆一郎: カンピロバクターを原因とする食中毒二事例 信州公衆衛生雑誌 7(1): 44-45, 2012
- 12-P3 長棟美幸, 宮島里美, 安川照人, 田中由嘉里, 白上むつみ, 西澤志帆, 赤澤春菜, 佐々木隆一郎: 飯田保健所管内における結核の現状について 信州公衆衛生雑誌 7(1): 46-47, 2012
- 12-P4 安川照人, 下平奈緒子, 大槻千博, 宮島里美, 白上むつみ, 三石聖子, 田中由嘉里, 西澤志帆, 佐々木隆一郎, 塚平晃弘, 桜井一彰: 飯田保健所管内医療機関における感染防止対策地域連携について 信州公衆衛生雑誌 7(1): 54-55, 2012
- 12-P5 遠藤幸男, 阿部孝一, 新家利一, 大橋俊子, 白井千香, 中瀬克己, 山口一郎, 佐々木隆一郎, 角野文彦, 安井良則: 東日本大震災後の避難所サーベイランスによる感染症の発生状況と対策に関する検討 日本公衆衛生学会総会抄録集 71: 158, 2012
- 12-P6 小松 仁, 千原 泉, 尾島俊之, 佐々木隆一郎: 地域における低出生体重児予防要因に関する検討 日本公衆衛生学会総会抄録集 71: 320, 2012
- 12-P7 伊藤実緒, 田中由嘉里, 宮島里美, 下平奈緒子, 佐々木隆一郎: 長野県飯田保健所管内における精神障害者の生活実態と支援課題の変化について 日本公衆衛生学会総会抄録集 71: 436, 2012
- 12-P8 佐々木 隆一郎, 緒方剛, 寺井直樹, 堀井淳一, 柴田裕行, 工藤淳子, 田上豊資, 多田羅浩三, 米山克俊: 大規模災害に備えた保健所の健康危機管理体制の基盤整備 日本版標準 ICS/IAP について 日本公衆衛生学会総会抄録集 71: 487, 2012
- 12-P9 下平奈緒子, 伊藤実緒, 田中由嘉里, 宮島里美, 佐々木隆一郎: インフルエンザ集団発生時における学級閉鎖措置の有用性の検討 日本公衆衛生学会総会抄録集 71: 532, 2012
- 13-P1 北澤卓也, 伊藤実緒, 宮島里美, 白上むつみ, 三石聖子, 小倉奈緒, 稲葉早紀, 西澤志帆, 佐々木隆一郎: 飯田保健所における警察官通報に関する一検討 信州公衆衛生雑誌 8(1): 26-27, 2013
- 13-P2 小野希代子, 井出伊織, 佐々木隆一郎: 飯田保健所管内 N 村における食生活改善推進員組織の再構築について 信州公衆衛生雑誌 8(1): 34-35, 2013
- 13-P3 白上むつみ, 宮島里美, 三石聖子, 小倉奈緒, 伊藤実緒, 稲葉早紀, 北澤卓也, 西澤志帆, 安川照人, 佐々木隆一郎: 飯田保健所における結核対策の取り組み 信州公衆衛生雑誌 8(1): 40-41, 2013
- 13-P4 小倉奈緒, 宮島里美, 白上むつみ, 三石聖子, 伊藤実緒, 稲葉早紀, 北澤卓也, 西澤志帆, 佐々木隆一郎: 飯田保健所管内における市町村の災害時要援護者(在宅難病患者)への支援に関する現状 信州公衆衛生雑誌 8(1):



42-43, 2013

13-P5 稲葉早紀, 三石聖子, 伊藤実緒, 西澤志帆, 宮島里美, 白上むつみ, 小倉奈緒, 北澤卓也, 佐々木隆一郎: 飯田下伊那未熟児等支援システム事業の取り組み 主に未熟児等支援検討会について 信州公衆衛生雑誌 8(1): 48-49, 2013

13-P6 佐々木隆一郎: 保健所の過去・現在・未来 保健所の現状 多様な保健所と連携による機能的標準化を目指して 日本公衆衛生学会総会抄録集 72: 82, 2013

13-P7 下平奈緒子, 伊藤実緒, 宮島里美, 佐々木隆一郎: 保健所管内における糞便由来病原体検出サーベイランスの活用について 日本公衆衛生学会総会抄録集 72: 562, 2013

14-P1 佐々木隆一郎: 長野色の健康づくり 信州公衆衛生雑誌 9(1): 21-22, 2014

14-P2 竹松美由紀, 宮島里美, 白上むつみ, 三石聖子, 西澤志帆, 下平奈緒子, 佐々木隆一郎: 飯田保健所における感染性胃腸炎予防のための出前講座の実施について 信州公衆衛生雑誌 9(1): 26-27, 2014

14-P3 西澤志帆, 宮島里美, 白上むつみ, 三石聖子, 竹松美由紀, 佐々木隆一郎: 飯田保健所管内における潜在性結核感染症の現状について 信州公衆衛生雑誌 9(1): 28-29, 2014

14-P4 白上むつみ, 宮島里美, 三石聖子, 竹松美由紀, 西澤志帆, 林 博, 下平奈緒子, 佐々木隆一郎: 院内感染防止対策加算が地域に与えた影響 信州公衆衛生雑誌 9(1): 30-31, 2014

14-P5 春日康洋, 小野希代子, 佐々木隆一郎: 平成 26 年豪雪における社会福祉施設の被災状況について 信州公衆衛生雑誌 9(1): 36-37, 2014

14-P6 荒川知幸, 小平満, 松沢寿次, 佐々木隆一郎: 飯田保健所管内における犬猫の処分頭数の現状について 信州公衆衛生雑誌 9(1): 38-39, 2014

15-P1 稲岡 歩, 磯部澄枝, 小田雅嗣, 阿部絹子, 酒井登実代, 石川みどり, 村山信子, 芳賀めぐみ, 澁谷いづみ: 健康日本 21(第二次)推進における効果的栄養施策の構築に関する検証(第 2 報) 日本公衆衛生学会総会抄録集 74: 529, 2015

15-P2 酒井登実代, 小林ゆかり, 吉川さなえ, 矢崎真樹子, 小林真琴, 小林 秀子: 健康日本 21(第二次)推進における効果的栄養施策の構築に関する検証(第 4 報) 日本公衆衛生学会総会抄録集 74: 530, 2015

16-P1 酒井登実代, 小林ゆかり, 吉川さなえ, 小林真琴, 小林秀子, 小野希代子, 寺井直樹: 健康日本 21(第二次)推進における効果的な栄養施策の構築～長野県における取組～ 信州公衆衛生雑誌 11(1): 40-41, 2016

16-P2 磯部澄枝, 稲岡 歩, 小田雅嗣, 酒井登実代, 阿部絹子, 石川みどり, 村山信子, 芳賀めぐみ, 澁谷いづみ: 健康日本 21(第二次)推進における効果的栄養施策の構築に関する検証(第 6 報) 日本公衆衛生学会総会抄録集 75: 617, 2016

16-P3 酒井登実代, 小林真琴, 小林ゆかり, 吉川さなえ, 小林秀子: 長野県における「地域課題に応じた減塩等モデル事業」の評価 日本公衆衛生学会総会抄録集 75: 632, 2016

17-P1 松岡裕之, 田中由嘉里, 羽場洋平, 白澤知子, 望月信子, 寺井直樹, 南恵子, 笠原ひとみ, 西垣明子: 外国より持ち込まれた麻疹症例と接触者の追跡 信州公衆衛生雑誌 12(1): 48-49, 2017

17-P2 坂元亜紀, 白上むつみ, 和田明美, 寺井直樹, 松岡裕之: 結核集団感染事例における職場での拡がりについて 信州公衆衛生雑誌 12(1): 50-51, 2017

19-P1 松岡裕之: 長野県飯田地方におけるスギ・ヒノキ花粉飛散状況 四半世紀の推移 信州公衆衛生雑誌 14(1): 48-49, 2019

19-P2 細萱綾香, 三石聖子, 松岡裕之: 平成 30 年度の飯田保健所における風しん抗体検査での抗体保有状況について 信州公衆衛生雑誌 14(1): 56-57, 2019

19-P3 飯沼雅子, 三石聖子, 松岡裕之, 坂元亜紀: 結核集団感染事例における感染の拡がりについて ～2年間の接触者の追跡記録～ 信州公衆衛生雑誌 14(1): 60-61, 2019

20-P1 松岡裕之: 歩数を意識させ運動習慣の定着をはかる Walking Challenge を通じて 長野県健康づくり研究討

論会 2020年2月3日(長野市)

20-P2 中島洋子, 田中由嘉里, 杉本あい, 三石聖子, 松岡裕之, 坂元亜紀: アルコール関連問題学習会及び家庭教室を実施してー4年間のまとめー 長野県健康づくり研究討論会 2020年2月3日(長野市)

20-P3 松岡裕之: 長野県飯田保健所管内で3年間に発生したレジオネラ肺炎 16例について 第71回長野県医学会 2020年7月19日 飯田市(誌上発表)

21-P1 松岡裕之, 筒井実佳, 酒井登実代: 自家用車通勤が多い長野県民の1日の歩数目標提案 信州公衆衛生雑誌 16(1): 48-49, 2021

21-P2 飯沼雅子, 赤澤春奈, 遠山尚子, 杉本あい, 吉川美波, 久保幸美, 野口愛実, 中平知世, 細萱綾香, 田中由嘉里, 三石聖子, 松岡裕之: 南信州で発生したCOVID-19クラスター 信州公衆衛生雑誌 16(1): 54-55, 2021

21-P3 後藤由也, 原 政博, 塚平晃弘, 後藤 暁, 矢野秀実, 瀬口里美, 建石 徹, 中山秀明, 松岡裕之: 障がい者支援施設における新型コロナウイルス集団感染の経験 信州公衆衛生雑誌 16(1): 56-57, 2021

21-P4 松岡裕之: 社会を衛る 新型コロナウイルス感染症への取り組み 第45回長野県臨床検査学会 2021年11月28日 飯田市

21-P5 松岡裕之: 市販されている新型コロナウイルス抗原定性検査キットの感度比較 第80回日本公衆衛生学会総会 2021年12月21-23日 東京都

22-P1 松岡裕之: 自動車通勤が多い長野県民の歩数目標(1日) 提案 長野県健康づくり研究討論会 2022年2月4日(Web会議)

22-P2 筒井実佳, 酒井登実代, 田中佳乃: 食育ボランティアと連携した高校生への食生活改善講座の検討 長野県健康づくり研究討論会 2022年2月4日(Web会議)

22-P3 遠山尚子, 久保幸美, 熊谷晶子, 坂元亜紀, 飯沼雅子, 赤澤春奈, 杉本あい, 野口愛実, 吉川美波, 征矢紗幸, 松岡裕之: COVID-19 オミクロン株 その世代時間について 信州公衆衛生雑誌 17(1): 50-51, 2022

22-P4 松岡裕之, 田中佳乃, 北原郁恵, 中平知世: 新型コロナウイルス抗原定性検査キット(医療用および研究用)の有用性 信州公衆衛生雑誌 17(1): 52-53, 2022

22-P5 松岡裕之: COVID-19 抗原定性キット 採取部位により抗原量が異なる 第81回日本公衆衛生学会総会 2022年10月7-9日 甲府市

## 6 その他(Notes)

92-N1 真田英機: 50年のあゆみ ~健康がこだまする地域社会をめざして~ pp.24 長野県飯田保健所 1992

94-N1 真田英機 武田延子 木下香文: 輝くいのち 一 高校生の乳児健診体験とロールプレイによるエイズ学習を実施してー pp.43 飯田保健所 飯田市 下伊那農業高校 1994

94-N2 真田英機 伊藤喜平: きらめいていきいきと 一 老人性痴呆予防のための脳刺激訓練教室3年間の実践ー pp.43 長野県飯田保健所 下條村 1994

95-N1 真田英機 高山由美 木下香: 輝くいのち II 一 高校生乳児ふれあい体験とロールプレイによるエイズ学習を実施してー pp.56 飯田保健所 飯田市 下伊那農業高校 1995

95-N2 真田英機: なくそう脳卒中 一ハンディがあっても生きやすい地域をめざしてー pp.88 飯田保健所 1995

96-N1 真田英機 熊谷章人 木下香: 輝くいのち III 一 高校生乳児ふれあい体験とロールプレイによるエイズ学習を実施してー pp.76 飯田保健所 飯田市 下伊那農業高校 1996

96-N2 塩沢千恵 真田英機: なくそう脳卒中 一ハンディがあっても生きやすい地域をめざしてー pp.106 飯伊保健婦業務研究会 飯田保健所 1996

97-N1 塩沢辰子 三浦弥生 磯野永子: 「届けたい、あなたに…いのちの素晴らしさを」パートII 下伊那南部地域における赤ちゃんふれあい体験学習 pp.24 飯田保健所阿南支所 阿南町 阿南高校 泰阜村 1997

97-N2 田中秀典 真田英機 木下香文 小林正枝: 輝くいのち IV 一 高校生乳児ふれあい体験とロールプレイによるエイズ学習を実施してー pp.100 飯田市 飯田保健所 下伊那農業高校 1997

98-N1 田中秀典 真田英機 木下香文 小林正枝: 輝くいのち V 一 高校生乳児ふれあい体験とロールプレイによるエイズ学習を実施してー pp.97 飯田市 飯田保健所 下伊那農業高校 1997

- 09-N1 佐々木隆一郎：長野色の健康づくり 信州公衆衛生雑誌 3(2)：1, 2009
- 10-N1 佐々木隆一郎、伊藤有子：住民の視点に立った地域づくり 信州公衆衛生雑誌 5(1)：15, 2010
- 14-N1 佐々木隆一郎：保健所公衆衛生医師の役割 公衆衛生 78(4)：226-227, 2014
- 14-N2 佐々木隆一郎：長野色の健康長寿システムの危機 信州公衆衛生雑誌 9(1)：1, 2014
- 17-N1 寺井直樹：リニアで飯伊の医療をどう変えるか 飯田医師会報 35：28-29, 2017
- 17-N2 松岡裕之：公衆衛生医になるまでの長い道のり 公衆衛生情報 47(1)：26-27, 2017
- 17-N3 松岡裕之：空飛ぶ注射器製作所 飯田医師会報 36：5-11, 2017
- 18-N1 松岡裕之：いたずら心を忘れずに 赤門（長野県シニア大学飯伊学部卒業記念文集）38：15, 2018 February
- 18-N2 松岡裕之：空飛ぶ注射器製作所 長野医報 670：34-39, 2018
- 18-N3 松岡裕之：東北 絶景の地を巡る 飯田医師会報 37：64-66, 2018
- 19-N1 松岡裕之：見果てぬ夢（研究心）を持ち続けて 赤門（長野県シニア大学飯伊学部卒業記念文集）39：14, 2019
- 19-N2 松岡裕之：保健所長が医師会理事に?! 飯田医師会報 39：21-23, 2019
- 19-N3 松岡裕之：水害を想定した防災訓練・マニュアルの準備を 飯田医師会報ニュース版 189：1-2, 2019
- 20-N1 松岡裕之：そのことを三十年続けましょう 赤門（長野県シニア大学飯伊学部卒業記念文集）40：14, 2020
- 21-N1 松岡裕之：2021年1月のCOVID-19とインフルエンザを流行予測する 飯田医師会報 41：20-25, 2021
- 21-N2 松岡裕之：新型コロナウイルス感染症 専用病床数拡大の陰で 飯田医師会報ニュース版 203：1-2, 2021
- 21-N3 松岡裕之：他山の石 飯田医師会報ニュース版 212：1-2, 2021
- 21-N4 松岡裕之：保健福祉対策担当理事として 飯田医師会報 42：26-27, 2021
- 22-N1 松岡裕之：どちらを向いても研究のタネ 赤門（長野県シニア大学飯伊学部卒業記念文集）41：13, 2022
- 23-N1 松岡裕之：失われた3年間 飯田医師会報ニュース版 226：1-2, 2023
- 23-N2 松岡裕之：あなたは何を発見しましたか？ 赤門（長野県シニア大学飯伊学部卒業記念文集）42：13, 2023

飯田保健所 歴代所長名簿

(平成21年4月から、飯田保健福祉事務所長)

	氏 名	在 籍 期 間	備 考
1	せき 関 よし 文 たま 圭	自 昭和19年7月3日 至 24年8月31日	
2	にし 西 ざわ 沢 ひろ 寛 し 志	昭和24年9月1日 26年4月6日	
3	ご 後 とう 藤 みつ 光 まき 正	昭和26年4月7日 26年12月23日	所長代理
4	みや 宮 うち 内 いち 一 ろく 六	昭和26年12月24日 37年6月30日	
5	か 加 とう 藤 とうじ 東二 郎	昭和37年7月1日 37年7月15日	
6	か 加 とう 藤 ひで 英 お 男	昭和37年7月16日 41年12月15日	
7	いわ 岩 なみ 波 あつ 篤 お 雄	昭和41年12月16日 46年4月26日	
8	さ と やま 佐藤山 ひそか 宓	昭和46年4月27日 48年3月31日	
9	ふじ 藤 しま 島 ひろ 弘 みち 道	昭和48年4月1日 55年3月31日	
10	ひ 樋 だい 代 きょう 匡 へい 平	昭和55年4月1日 58年3月31日	
11	ふじ 藤 しま 島 ひろ 弘 みち 道	昭和58年4月1日 60年3月31日	
12	かま 鎌 た 田 かず 一 お 男	昭和60年4月1日 63年3月31日	
13	ふし 伏 み 見 はじめ 一	昭和63年4月1日 平成3年3月31日	
14	さな 真 だ 田 ひで 英 き 機	平成3年4月1日 12年3月31日	
15	くろ 黒 だ 田 いく 育 こ 子	平成12年4月1日 15年3月31日	
16	ふる 古 かわ 川 よし 善 ゆき 行	平成15年4月1日 16年4月30日	
17	さ さ き 佐々木 りゅういちろう 隆一郎	平成16年5月1日 27年3月31日	
18	てら 寺 井 なおし 直 き 樹	平成27年4月1日 29年3月31日	
19	まつ 松 おか 岡 ひろ 裕 ゆき 之	平成29年4月1日 年 月 日	

飯田保健所開設 80 周年記念誌

令和 5(2023)年 3 月 31 日 発行

発行 長野県飯田保健福祉事務所

長野県飯田保健所

長野県下伊那福祉事務所

〒395-0034

飯田市追手町 2 丁目 678 番地

電話 0265-23-1111 (代表)